

令和6年産麦 中期栽培講習会資料

令和6年1月18日
JAたかさき
西部農業事務所普及指導課

!必ず・適期に“赤かび病防除”の実施 !基本技術の励行

1 令和5年産 麦類の品種別平均単収（契約面積と確定重量から算出）

品種	JAたかさき 平均単収 (kg/10a)	全農ぐんま 基準単収 (kg/10a)
さとのそら	376	400
きぬの波	468	459
ゆめかおり	433	330
シュンライ	379	370

2 令和5年産 麦類の品種別検査数量・等級割合(群馬県)

品種	検査総数 (kg)	1等 (%)	2等 (%)	規格外 (%)
きぬの波	959,835	17	82	1
さとのそら	16,036,633	83	15	2
ゆめかおり	974,013	61	37	2
シュンライ	1,662,636	57	37	6

3 麦踏みの実施

暖冬で、生育が早まっており、徒長を抑えるために1～2回多く行う。

【麦踏みの効果】生育をコントロールし、耐寒性や耐倒伏性を高める

- ・生育に併せて、生育期間中3～4回実施する。
- ・土壌が凍結していたり、土壌水分が多い場合は実施しない。
- ・茎立期（3月中旬）以降の麦踏みは茎を折ったり、幼穂を傷つけるので避ける。
⇒麦踏みの実施は幼穂長2mm以下の時期まで！

＜麦踏み時期＞

時期	回数	備考
本葉3葉期	1回	麦が小さいころは軽い麦踏みとする
1～3月上旬	2～3回	暖冬の年、出芽数不足、過繁茂の時は 1～2回多く行う

4 麦類の凍霜害

(1) 発生条件

- ①幼穂凍死型：幼穂長20mmのころに0℃以下の低温に遭遇した場合に発生
- ②不稔型：減数分裂期に-1.5℃に3～4時間、または出穂期に0～2℃の低温に遭遇した場合に発生

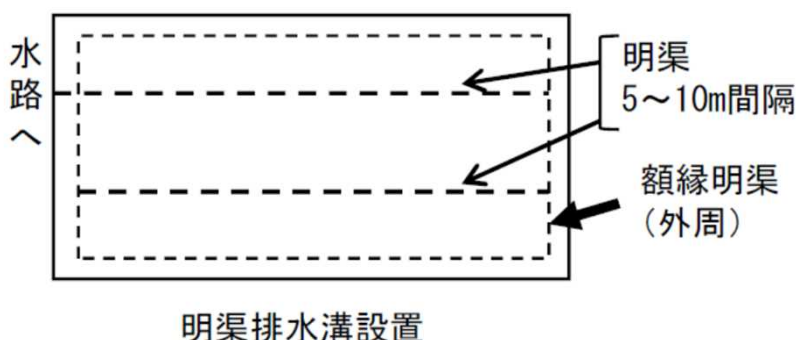
(2) 被害後の対策

- ・幼穂凍死は「うどんこ病」、不稔は「赤かび病」の発生を助長するので防除に努める。
- ・幼穂凍死では遅れ穂の発生により、収穫時期の判断が難しくなるため、刈り遅れないよう注意が必要。



5 排水対策の徹底

幼穂形成期及び成熟期には湿害の影響を受けやすいので、特に排水の悪いほ場では明渠排水溝（深さ30cm程度）の設置を必ず行う。



6 追肥の実施

- ・収量とタンパク質含量を確保するため、生育状況を見ながら適期に追肥を行う
- ・「ゆめかおり」は、開花期の追肥がタンパク質含量向上に有効である。赤かび病防除と尿素溶液の同時散布も有効。
- ・「シュンライ」の畑作は、水田作よりタンパク質含量が高くなりやすいため注意が必要。茎立ち期以降の追肥は行わない。

<麦種別追肥の窒素量と時期の目安>

品種	追肥窒素量	追肥時期
さとのそら シュンライ	2～3kg/10a	茎立ち期直前 3月上旬ころ
きぬの波	4～6kg/10a	
ゆめかおり	1回目 2～4kg/10a	開花期ころ 赤かび病との同時散布も有効
	2回目 2～4kg/10a または、2%尿素溶液	

<追肥資材の施用量目安>

肥料名	窒素分量：施肥量目安	
硫安（窒素成分21%）	窒素量 2kg：10kg/10a	窒素量 4kg：20kg/10a
NK-17（窒素成分17%）	窒素量 2kg：12kg/10a	窒素量 4kg：24kg/10a

7 適期・適正な雑草防除

- ・ 土壌処理剤で防除しきれなかった雑草を茎葉処理剤で防除する。
- ・ 効果的な防除のために、雑草の発生状況（生育ステージ、種類）によって適切な薬剤を選択する。

薬剤（例）	適用雑草	使用回数
ハーモニーDF	スズメノテッポウ、一年生広葉雑草	1回
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	2回以内
バサグラン液剤（ナリウム塩）	一年生雑草（イネ科を除く）	1回

【近年発生の多い広葉雑草】

- （1）ミチヤナギ（タデ科・種子繁殖・一年生雑草）
 - ・ 春の出芽が多いが、秋まで出芽を続ける。
 - ・ 水稲との二毛作ムギにも生える。
 - ・ 土壌pHや土性など土壌環境への適応性は高い。
 - ・ ムギでは、群生・繁茂して雑草害を引き起こすことがある。
- （2）コアカザ（ヒユ科・種子繁殖・一年生雑草）
 - ・ 早春に出芽、麦類の生育が悪い場所や欠条部分などの土が見えるような場所に多発。

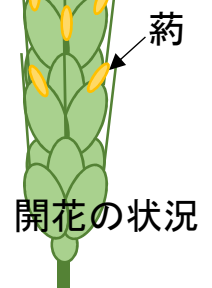


8 赤かび病防除(必須)

◎かび毒であるデオキシニバレノールの検出が基準値[1.0ppm]を超えた場合、自主的な出荷停止となるため、**嚴重な注意が必要。**

- （1）被害の様子
出穂から乳熟期にかけて、穂の一部あるいは全部が褐色になり、穎(えい)の合わせ目に桃色のカビ(分生胞子)が生ずる。
- （2）発生の条件
 - ・ 出穂期前後の気温が高く、降雨が多い場合発生が助長される。
 - ・ 感染後、度々降雨がある場合、病斑周囲への拡大が速い。
- （3）防除適期

小麦	出穂期の7～10日後ころ（開花を始めた時期から開花期） (出穂期：全茎の40～50%が出穂した日)
六条大麦	穂ぞろい期（全茎の80～90%が出穂した日） (開花を始めた時期から開花期)



※開花期：1穂につき数花開花しているものが、全穂の40～50%に達した日

◎その後の気温が高く、降雨が続く場合、1回目の7～10日後に追加の防除を行う。

薬剤（例）	使用回数	使用時期
トップジンM水和剤	小麦 2回以内（出穂期以降）	収穫 14日前まで
	大麦 1回以内（出穂期以降）	収穫 30日前まで
ワークアップフロアブル	3回以内	収穫 7日前まで

9 収穫適期

刈り遅れによる品質低下を防ぐため、以下を参考に適期収穫に努める

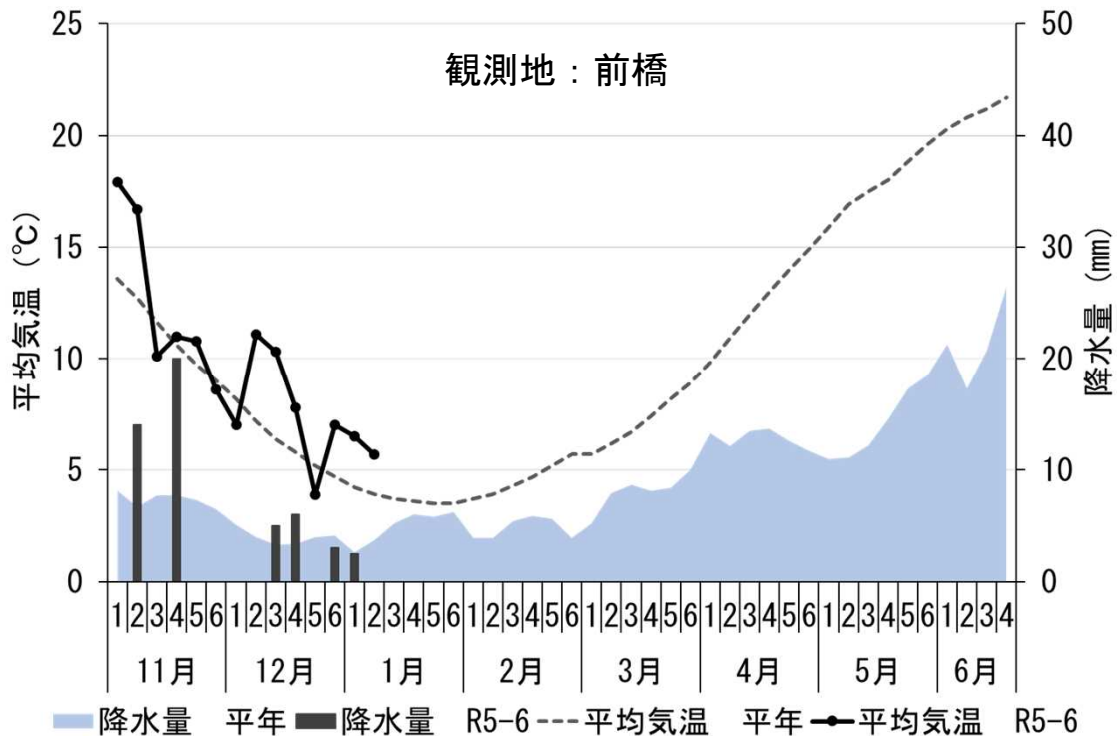
【収穫適期の目安】

- ・ 穀粒水分 25%以下
- ・ 穂首の曲がった穂が50%以上（小麦・大麦）
- ・ 出穂期からの積算温度 915℃到達日以降（小麦「さとのそら」）

◎長期間の降雨と低温が予想される場合、高水分条件（35%まで）での収穫もやむを得ない。

◎収穫期の降雨により穂発芽が発生するとアミロ値が低下し、フォーリングナンバーが低下する。それによってグルテンが弱まり、生地にしたときにまとまりにくくなるため、実需からの返品となる可能性がある。

（見た目で発芽していなくても、芽が動いている場合アミロ値が低下する）



< 3か月予報（R5.12.19気象庁発表・関東甲信地方） >

	1月	2月	3月	予報のポイント
平均気温	高い	高い	平年並か高い	寒気の影響を受けにくいいため、向こう3か月の気温は高いでしょう。
降水量	平年並か多い	平年並か多い	ほぼ平年並	低気圧などの影響を受けやすいため、向こう3か月の降水量は平年並か多いでしょう。

！農薬飛散に注意！・本資料記載の農薬は、令和6年1月1日現在登録のあるもの
 ・飛散（ドリフト）した農薬が周辺作物へ付着しないよう、農薬使用時は注意する
 ・農薬使用時はラベルを確認し、使用時期・使用方法・使用量を遵守
 ・農作業時は安全確認を必ず行い、事故に注意
 ・GAPチェックシート、作業日誌に記入し、生産活動の把握・改善を図る